

特別展覧会

高橋コレクション展 アートのふるさと

出品作家（五十音順）

会田 誠／青山 悟／荒木経惟／池田 学／石田尚志／猪瀬直哉／今津 景
／梅津庸一／大久保薫／大山功ヨイム／小谷元彦／金子富之／草間彌生
／鴻池朋子／合田佐和子／近藤亜樹／さわひらき／塩保朋子／奈良美智
／名和晃平／蜷川実花／橋爪 彩／久松知子／藤田桃子／舟越 桂
／水戸部七絵／村上 隆／森村泰昌／やなぎみわ／山口 晃／横尾忠則



1



2



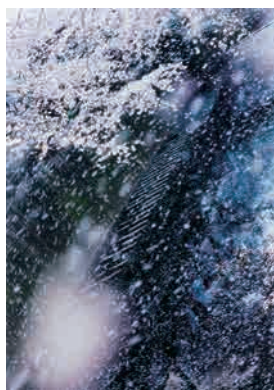
3



4



5



6



7



8

1. 名和晃平《PixCell-Gazelle#2》2006年 ミクストメディア／2. 草間彌生《かぼちゃ》1990年 カンヴァスにアクリル絵具 ©YAYOI KUSAMA／3. 山口 晃《當否おぼか合戦》1999年 カンヴァスに油彩 ©YAMAGUCHI Akira, Courtesy of Mizuma Art Gallery／4. 鴻池朋子《第4章 帰還—シリウスの曳航》2004年 アクリル絵具、墨、雲肌麻紙、木パネル／5. 近藤亜樹《母と子》2017年 ボードにアクリル絵具、ラッカー塗料、コラーージュ／6. 蜷川実花《PLANT A TREE》2011年 タイプCプリント ©mika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery／7. 会田 誠《大山椒魚》2003年 パネルにアクリル絵具 Photo by 木與恵三 ©AIDA Makoto, Courtesy of Mizuma Art Gallery／8. 横尾忠則《三島由紀夫の最後の小説「豊饒の海」の三巻「暁の寺」を訪ねてバンコックに行った。この頃東京は雪だった。黄金の光のバンコックにしながら、もうひとりのぼくは東京にいた。そんなバイロケーション感覚を描いた。》2001年 カンヴァスにアクリル絵具 ©Tadanori Yokoo, Courtesy of Nishimura Gallery

高橋コレクションは、精神科医の高橋龍太郎氏が収集する現代アートコレクションです。これまでに日本有数のコレクションとして国内外で多数の展覧会を開催してきました。この度は、高橋龍太郎氏の生まれ故郷であるこの鶴岡で「アートのふるさと」と題し、世界的に活躍するアーティストから、新たにコレクションに加わった若手作家まで、合計31人による、絵画、彫刻、版画、写真、映像、インスタレーションなど約100点を展覧します。

展覧会タイトルの「ふるさと」という言葉には、ふたつの意味が込められています。ひとつは高橋龍太郎氏の故郷であるこの地に、アートコレクターである高橋龍太郎氏とコレクションの原点を探ることです。もうひとつは、アートの原点や根源を探ることにあります。

高橋龍太郎氏はアートの原点を考えたときに、「中動態（性）」という言葉にそのヒントがあるのではないかと考えています。能動態でも受動態でもなく、中動態としてアートを位置づけることは、作品に対する意味付けや解釈からの解放を、そして、アートがアーティストの表現でありながら、人々に自由に鑑賞されるものであることを気づかせてくれます。アートは時に主体となり、時に客体になるが故に、中動的な主体と客体を越えた存在として見ることもできるのかもしれませんが。

現代では、さまざまな芸術表現が認められ、アートは広く社会のなかで身近に存在するものとなっています。加えて、身近になっているからこそ、より多くの人々が楽しめるものとして、アートが魅力を増しています。本展覧会では、作家ひとりひとりの自由な作品世界をとらえて、現代アートの世界を一望します。

高橋龍太郎

精神科医。医療法人こころの会理事長。日本屈指の現代アートコレクターとして知られる。1946年、山形県鶴岡市に生まれ、小学校から高校までを名古屋で過ごす。東邦大学医学部を卒業後、慶応大学精神神経科入局。国際協力事業団の医療専門家としてペルー派遣などを経て、1990年、東京・蒲田にタカハシクリニックを開設。専攻は社会精神医学。地域精神医療に取り組むとともに、心理相談、ビジネスマンのメンタルヘルス・ケアにも力を入れている。主な著書に、『あなたの心が壊れるとき』（扶桑社文庫）、「人生にはいらぬ人間関係がいっぱいある」（青春出版社）、「恋愛の作法」（ポプラ社）など。

1997年より、日本の若手作家を中心に、本格的に現代美術のコレクションを開始。2004年に東京・神楽坂に、その後、白金、日比谷、日の出にコレクションを公開するスペースを開設。2008年より全国の美術館で「ネオテニー・ジャパン」展や「マインドフルネス」展などのコレクション展を多数開催。

〈開催記念〉オープニング・トーク

7/14 日 午後2時～午後3時

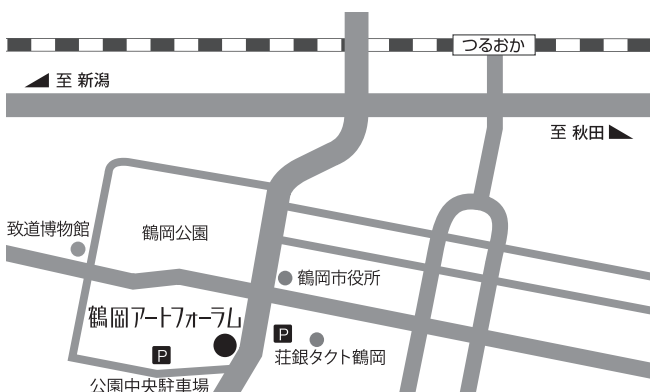
ゲスト：高橋龍太郎氏、久松知子氏（出品作家）

ゲストを迎えて、お話を伺いながら展覧会をご案内いたします。要観覧券。申込不要。

ギャラリー・トーク

7/21、8/11 日 各日午後2時～午後3時

担当学芸員が展覧会をご案内いたします。要観覧券。申込不要。



※お車で越しの際は、荘銀タクト鶴岡、公園中央駐車場が最寄です（無料）

鶴岡アートフォーラム

〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町13-3
TEL:0235-29-0260(代表) FAX:0235-22-6051
E-mail: info@artforum.net URL: http://www.artforum.net